

乙訓圏域障がい者自立支援協議会
令和7年度 第5回就労支援部会 会議録

日 時 令和8年2月2日（月）10:00～11:50

場 所 乙訓福祉施設事務組合 会議室

出席者 14名

就労移行支援事業所ステージ、しょうがい者就業・生活支援センターアイリス（2）、乙訓若竹苑、乙訓障害者支援事業所連絡協議会（2）、京都府立向日が丘支援学校、乙訓地域商工会広域連携協議会、乙訓やよい会、乙訓の障害者福祉を進める連絡会、乙訓保健所福祉課、長岡京市障がい福祉課（2）、大山崎町福祉課

欠席者 2名

京都七条公共職業安定所障害者職業相談室、向日市障がい者支援課

事務局 3名

傍聴者 0名

配布資料

- ・次第
- ・2025年度庁内実習実施状況一覧表（案）
- ・庁内実習調整役の動き（案）
- ・庁内実習後の紹介ツール（案）
- ・令和7年度就労支援部会 学習会報告（案）
- ・令和7年度就労支援部会 活動報告（案）
- ・指定就労継続支援事業所の新規指定や運営状況の把握に関するガイドライン
- ・令和8年度における臨時応急的な見直し（案）

会議概要

部会長 ・事務局より事前に資料を送っている。読んできていただいている前提で話を進めていきたい。

1 今年度の活動報告について

部会長 ・令和7年度就労支援部会活動報告（案）から進めていきたい。事前に送った活動報告（案）と今日配った活動報告（案）に違いがある。事務局より説明をお願いしたい。

事務局 ・マーカー部分が変更点になっている。「3 今年度の取組状況」は次第タイトルの下に具体的に何をしたのかを記載した方が良いという意見があり、付け加えている。

- ・「4 今年度の活動（1）庁内実習の実施について」は就労継続支援B型（以下、就Bという。）

の中で出た課題もあげておいた方が良いという意見があり、付け加えている。

・「4 今年度の活動（4）就労選択支援事業について」はワーキングチームで確認したことを追記している。

・「5 次年度の課題と方針」は順番の入れ替えにより全体的に変わっている。

部会長 ・一項目ずつ確認していきたい。「1 設置の目的、役割等」、「2 昨年度までの経過」のところで意見等はあるだろうか。こちらは大きく変わらないため、この形で出ささせていただく。

・「3 今年度の取組状況」については変更部分について他の部会との兼ね合いもあるが、就労支援部会においては変更部分を追記した方が良いだろうか。

委員 ・追記してもらって良いと思う。

部会長 ・就労支援部会としては追記した形で出せるよう運営委員会に諮っていきたい。

・「4 今年度の活動」について確認していきたい。

○庁内実習について

委員 ・今年度は募集人数を上回ったところ、枠を増やして受け入れていただき感謝したい。

資料「庁内実習調整役の動き（案）」の「庁内実習の流れ」を見ていただきたい。「実習者の確定」、実習者が決まってから顔合わせまでに実習者のプロフィールを伝える場があった方が良いという意見があった。初めての顔合わせでその方の状況や特性がわかったうえで受け入れをしてもらえる。受け入れ側にとっても良いのではというところで、事前にプロフィールを出せる場があったら良いという声がアンケートであがっていた。

・今回実習をされた方達の多くが初めての方、昔一般就労されていたが久しぶりの実習の方で緊張が高い中で有意義な実習になったように思っている。

部会長 ・調整役を数年同じ委員に一人でしていただいていた。年度当初に協力していただけるならお願いしたいということだったが、何を協力したら良いのか、どんな流れで調整役が動いているのかが明らかでないと意見も出しにくいということで調整役の動きをまとめてもらった。これを元に次年度、庁内実習を継続するのであれば一緒に調整役を担ってもらえるよう検討してもらいたい。

・庁内実習について、「就労継続支援 B 型事業所の現状や課題に取り組む必要性について話題にあがっていた」ことについて、福祉就労についての課題は乙訓障害者支援事業所連絡協議会（以下、乙障協という。）に依頼し、その後乙障協でどのような協議が諮られているのか確認を行った。「乙障協では就労系の施設以外にもグループホームや生活介護等色々な種別の支援機関が入っており、なかなか就労支援に特化した交流までができていないこと、乙障協の役員体制も2年間の任期だが1年ごとに半分が入れ替わることにより、継続した課題や継続した学習会や交流会まで設置しにくいのが現状である。」ということだった。就 B の課題等については乙障協と連携しながら、交流の機会や課題共有、課題の解決等も部会の中でも継続して取り組んでいく必要があると感じている。

委員 ・色々なグループホームや生活介護等、乙訓の障がい者の事業所全体の集まりなので就 B だけの課題は出にくいところがある。乙障協とこの就労支援部会がどう連携していくのかが大事だという話は出ていた。

部会長 ・後で出てくるが就労選択支援事業のワーキングチームでも就 B についての学習会や就労選択

支援についての勉強会等も事例が出る中で行った方が良いという話も出ていた。次年度については就 B の現状や課題について就労支援部会で検討していくひとつの課題としてあげていきたいと思う。他に意見等はあるだろうか。

委員 ・活動報告とは関わりないので後程時間をいただきたいと思うのだが、前回の庁内実習の報告で庁内での雇用に結びつくという誤解があったということだった。プロセスにおいてどういうところでそのような誤解が生じたのか聞きたいと思う。受け入れ側も困られたことだと思うが、当事者である実習者も心が傷ついたのではないかと心配している。今後の留意点として、どうすればそのような誤解が生まれずにすむのか、後程話し合えたらと思う。

部会長 ・次年度の課題として、後程議論したい。
・資料「庁内実習後、一般就労に向けて自己実現を広げる資源（案）」、「しょうがいのある人の就労の可能性を広げるために活用できる資源（案）」を付けている。こちらも意見があり修正している。次年度、庁内実習を広報するにあたって推薦機関に話をする添付資料として付けたいと思っている。意見をいただければ、その都度見直し、ブラッシュアップしていく必要があると思っている。

事務局 ・資料「庁内実習実施状況一覧表（案）」だが、いただいた意見を反映している。最終の形として確認してもらったうえで全体会にあげていきたいと思う。受け入れ機関から実際に行った内容をお知らせいただき修正したところがある。他に個別の振り返りを報告の中に盛り込んだ方が良いのではないかという意見もあったが、今年度については個別の振り返りというところでアンケートという形より実習者個人の振り返りという形で記入してもらっているところがあるため添付しない方向で考えている。一覧表の中に報告という形で盛り込んだ方が良いということであれば、次年度はそのような形で振り返りをするということで案内をする必要があるかと思っている。全体会の報告にあげていった方が良いのか、確認したいと思う。

部会長 ・振り返りの時に出た発言や振り返りシートに書かれた用語というのは報告書の中に盛り込むという説明はなく、実習者のその後の評価、その方が今後どうモチベーションを持っていかれるのかということに焦点をおいて進めていたと思う。

委員 ・庁内実習をどういうものにしていきたいのか、どうしていくのかというところで活用すれば良いと思う。今年度も振り返りとして受け入れ機関や支援機関から意見が出ている。それを次年度に活かすことで考えれば、この場で共有し次年度の庁内実習を作っていければ良いのだと思う。実習者の振り返りを載せるのは個人情報が出てしまうのではないか。

部会長 ・アンケート集約する中で次年度に課題として考えていくような点はあったらどうか。

委員 ・顔合わせ前にプロフィールを見てもらう時間が必要ではないかという意見は多かった。実施要領には書いてあるが、食い違いが出てくるようである。今回誤解が生じたこともあり、どんなふうに伝えていくのか、振り返りをしていくのか等について、次年度の調整会議で共有する必要がある。

部会長 ・実習前にももう一度口頭でも伝えていく必要があるかもしれない。受け入れ機関としても誤解のないように、実習者が庁内実習に取り組んでみようという意欲を持たれたことについての評価と今後の課題や応援の伝え方についても少し言葉を選んでいただく必要があるかもしれない。

- 委員 ・気をつけていても出てきてしまう部分はあると思う。今回についても振り返りには推薦機関も付いている。その場で訂正するほどのことでもなかったのかもしれない。タイミングが悪くなってしまったように推測される。
- 部会長 ・次年度は部会としても気をつけて取り組んでいく必要がある。
- 副部会長 ・次年度の庁内実習の課題について、身体障がい者の方の実習を受け入れてもらったのだが実習当日にテーブルの高さが合わない等、スムーズに実習が進まない点があった。事前のプロフィールと合わせて、事前面談時に環境等を希望により見せてもらえると実習がうまくいかないリスクが減らせるように思った。検討してもらえればと思う。
- 委員 ・その方が企業で実習するとなった時に、こういうことを伝えておかないといけない等がわかったことも庁内実習の目的のように思う。次年度、事前にプロフィールを見てもらうところで見直させていければと思う。
- 委員 ・関西の特例子会社を見学した際、責任者の方によると、実習者には受け入れ前に必ず実習する場を見に来てもらうことにしているとのことだった。いきなり初めての場で実習するのではなく、事前に現場を見て心の準備をすることの必要性を説かれていた。副部会長のご発言の身体障がいの方の実習については、事前に実地での環境整備が必要不可欠であったと思う。受け入れ側もその必要性を認識しておく必要がある。実習前のプロセスにおいて精神面でも身体面でも、環境調整ができる手続きを設定しておくべきではないか。
- 委員 ・実習受け入れ機関も実習を行いながら気づくことが多く、勉強しながら実習受入をさせてもらっているところも多い。今回、広めの部屋を一部屋作業用にあて、3名の実習生に一度に入ってもらっていた。基本のやり方なら机を上手に使えばできそうなことでも、作業が始まるとこの方には作業スペースが足りない等やりながら出てくる問題があった。隣の部屋が空いていたため、移動を勧めるのではなく、その方にどうしたいかを確認し、広いスペースでの作業を案内させてもらった。色々大変な思いをさせたところもあったと思うが、今後も受け入れさせてもらえたらと思っているので、少しずつ受け入れ機関としても積み上げができればと思っている。調整会議を含め、他の実習機関とも受け入れ側の課題等について共有できれば良いと思っている。
- 部会長 ・プロフィールシートの様式について、再度確認を年度当初にできればと思う。事前打ち合わせについても今年度出た課題をふまえて行っていきたいと思う。
- ・今年度は募集よりも多い実習者が集まった。過去には商工会に急遽受け入れをしていただいたこともあった。次年度チャレンジしたいという方にはすべての方において実習の機会を得てもらいたいと考えている。商工会にも実習の機会をお願いすることになった時には協力をお願いしたい。
- 委員 ・以前に商工会で実習をさせてもらった時に振り返りを書いてくれた内容がとても新鮮だった。商工会の方は人が圏域外に流出していき人が集まらない課題があり、一方で圏域で働きたい障がいの方がおられる。そこを考えていきたいと言ってもらい、こうすれば雇用に繋がらないか等福祉目線ではなく企業目線で障がい者雇用を考えてくれてとても新鮮だった。また協力をお願いしたい。
- 事務局 ・資料「しょうがいのある人の就労の可能性を広げるために活用できる資源（案）」だが点線の枠内について修正している。確認いただきたいと思う。

- 部会長 ・点線の枠内について、前回までの資料にはこの点線の枠内にも線があった。
- 事務局 ・線が入るとわかりにくいという指摘もあり、線を消して、その大枠の中のものを選べるというイメージができればよいようにさせてもらった。
- 部会長 ・庁内実習の案内の時にこの資料と以前に作成した冊子を一緒に配る形で良いだろうか。就労選択支援を入れた冊子を次年度の1回目で確認したうえで、そちらを使って案内にまわる形にしたいと思う。

○基本情報について

- 部会長 ・意見等はあるだろうか。意見がないようなので、事務局で年に2回確認をし、ブラッシュアップしていく形でお願いしたい。
- 事務局 ・学校への周知というところで高校への周知を、事務局から直接乙訓圏域の高校にまわらせていただくと思っている。年度内にまわらせていただく予定である。

○福祉就労から一般就労に向けて

- 部会長 ・今年度は「あたつく組合」にしょうがい者就業・生活支援センターアイリスと事務局とで訪問し、部会で共有させてもらった。学習会ではジョブジョイント大阪、乙訓ひまわり園より報告をいただいた。資料としてこの時のアンケート報告を付けている。
- 事務局 ・資料のアンケート報告「4 分からなかったこと、質問しきれなかったことがございましたら、ご記入をお願いいたします。」のところで、質問に対する回答をジョブジョイント大阪に確認し、その内容を載せている。こちらの確認をお願いしたい。
- 部会長 ・昨年10月から就労選択支援が始まり自己選択、自己実現についての学習会が部会の中で行われた。講演と質疑応答だけで時間がいっぱい、グループに分かれて話し合うところまではできず心残りなところはあったかもしれない。学習ができたことについては部会の取組として評価できると思う。アンケート報告についてはこのままで良いだろうか。意見がないようなので、このままとさせていただく。

○就労選択支援事業について

- 部会長 ・先日ワーキングチームを行った。内容はマーカー部分の「ワーキングチームでは」からの内容になる。出席者で共有したいこと、確認したいことを各立場から話をして共有している。その中で基本プロセスとアセスメントの様式については進めながらブラッシュアップしていく点もあるのではないかという意見もあったが、一定のアセスメントの手法については意見を共有している。出席された方で補足や意見等あるだろうか。
- 委員 ・アセスメントシートの内容や項目の絞り込みの検討は難しかった。報告の中では「アセスメントシートを作成しました。」となっているが、後日に意見集約をし、修正をかけていくと確認できたところだと思うので「作成しました。」となるのだと思う。たくさんの方が参加されている中で質問がたくさん出ていた。特にこの流れや、「こういった場合はどうなるのか」等、就労選択支援事業に関わっている者でさえ分からないことが多々あった。事業所に説明していく時間を丁寧にとらないといけないという確認はできたように思っている。今後それを進めていくと

ころだと思う。

部会長 ・相談支援専門員の方が就労選択支援を活用するにあたっては計画を立ててもらわないといけない。まずはそこがどこまで周知できているのかについては3月の相談支援事業所連絡会の中で事務局から説明をしていただくことになっている。

事務局 ・相談支援事業所連絡会の中で既に2回共有させてもらっている。1回目は支援学校で高校2年生の保護者に行政が行った説明会の情報共有と、2回目は支援学校と就労選択支援事業をされる就労移行支援事業所ステージに来ていただき、流れについての表を共有しながら説明いただいている。質問を募った時に相談支援専門員の方もまだ想像ができないので質問がでなかったと思われる。説明会は2回行っているが、実際にケースを進めていくところでもう少しイメージしてもらえるような話を3月の説明会でしていただけるように協力をお願いしている。

委員 ・「アセスメントシートを作成しました。」とあるが、今後修正されていくということだろうか。

委員 ・どうしていくかという話の場だったが、当日それを見て、読み込んだだけでは難しかった。一旦それを持ち帰り、読み込んでもらったところで意見を集約していくということだった。

委員 ・3月の相談支援事業所連絡会での説明会では決定版が出されるということだろうか。

事務局 ・2月中には使えるものにするのでワーキングチームでは確認されている。各市町から意見をいただくことになっており、今その意見が返ってきているところである。

部会長 ・相談支援専門員や支援学校の学生については進路担当の先生方が付いているところで、就労選択支援の最後のアセスメント情報シートとしては方向性を伝えるというところで「あなたにはこの施設が合っている。」といった具体的なことではなく、「得意とされるところ、課題とされるところを今後このように取り組んでいかれてはどうか。」というようなことについて返していくが、その人に合った施設を誰が選ぶのか、どう選ぶのかについては相談支援専門員や学生の場合は進路の先生と相談しながらでないと、就労選択支援はこの時点で一旦終了してしまうので後々の事業所選択の結論までは至らないところがあることも協議の中で出ていた。就 B に通いながら就労選択支援をとられる方も1日の中で併用した部分がどうなるのかも確認しながら、就 B に通っている方が希望された場合に困ることにならないように調整していく必要があるということもワーキングチームの中では出ていた。

委員 ・マーカー部分の最後の行のところで「圏域の統一したアセスメントシートを作成しました。」となっているが、ワーキングチームの中では乙訓地域に住んでいる方はこの様式という決め方ではなく、乙訓地域で行っている就労選択支援事業所はこの様式というアセスメントシートの作り方、広げ方だったと思う。他圏域の就労選択支援事業所を使うケースも出てくるかと思う。乙訓の方だからこの様式でやってもらわないと受けられないとはならないように、圏域の事業所での統一ということになっていたの、利用者が統一されるのではないような書き方に変えた方が良かった。

部会長 ・他圏域の就労選択支援事業所を利用した場合に乙訓の様式を使っていると、制約されたり、受けた時に受けられなくなるとはいけないので、乙訓ではこの様式を使っているという案内はするが、利用する就労選択支援事業所の様式があるのであればそれを使ってもらえば良いという話をしていた。

事務局 ・どう表現したら良いのかアイデアをいただきたい。

- 委員 ・「圏域の就労選択支援事業所を利用」もしくは「活用される場合の統一したアセスメントシートを作成しました。」ということだと思ふ。
- 委員 ・使用するのは就労選択支援事業所である。「圏域の就労選択支援事業所が使用する統一したアセスメントシート」で良いと思ふ。
- 部会長 ・そのようにさせていただきたいと思ふ。他にワーキングチームに参加されていた方の意見、感想をお願いしたい。
- 委員 ・相談支援事業所もない方はスケジュール感としてはいっぱいいっぱい。「どこに行きなさい」ということではなく、就労に特化した部分で良いところ、課題と言われるところでもっと伸ばせるところ等を学校では就労に特化した指導だけではないので、専門的な目で見えていただく貴重な機会だと思っている。生徒もそれをものにしていき自己成長に繋げている方もいる。こちらもそういう推し方ができれば良いと思っている。運用の仕方は相談しながらになっていくとは思ふが、生徒達にとっても中身の良いものになっていけばと思っている。
- 委員 ・制度上ややこしくなってしまう部分があったりする。実際に就 B に通うまでに時間がかかるところもどうやっていくのかも始まってみないとわからないと思ふ。圏域内の就労選択支援事業所が使用するアセスメントシートが統一されたということだが、圏域外の事業所を使用する場合に乙訓ではこういうアセスメントシートを使用していることを提案することもできるということで提案する場合のアセスメントシートはどこかで公表されたり、ホームページ等で見られたりする予定はあるのだろうか。
- 事務局 ・以前の就労アセスメントはどうだっただろうか。
- 委員 ・関係者だけで共有していたように思ふ。
- 委員 ・相談支援事業所が持っておかないといけないように思ったので、作りあげた物をどこかでダウンロードしてもらふことになるのかなと思つた。乙訓でも決まっているものがあるのか聞かれることが多いように思ふ。その時に提案ができるようにしておく方が良いように思つた。
- 委員 ・昨年度の就労アセスメントで他圏域の事業所でアセスメントをとる時に決まっているシートがあるかどうかを聞かれた。乙訓の中では共有されているが他圏域の事業所にそこまで願ひする決まりはないので、そちらで願ひしたいという説明を学校がしている。成人の場合は間に入るのが相談支援事業所になると思ふ。なかなかマッチしにくい面もあるので、提案できるようにしておいた方が良くもしれない。
- 委員 ・事務局であげられる場所があるのであれば、そちらに誘導できると思ふ。アセスメントシートの中身がやりながら少しずつ変わっていくところもあるので、それをホームページにあげることができるのか、問い合わせがあった時に最新のものをここで提供しているというやり方になるのかも市町によってもやり方が変わってくるように思ふ。
- 委員 ・乙訓福祉施設事務組合のホームページにあげることができるのだろうか。
- 事務局 ・できるのだが、できれば行政でしていただく方が良くとは思ふが、難しいようなら自立支援協議会のホームページで良いのかなとは思ふ。
- 委員 ・問い合わせはきつくとくると思ふ。持っておいて今まで通り最新のものをその場でメールアドレスで提供することはできると思ふ。
- 部会長 ・様式もまだ3月の相談支援事業所連絡会の説明会に間に合うようにというところで、やりな

がらできあがっていくところがあるように思う。今は支援学校の学生がメインだが、これから就 Bに通っている方や何も利用していない方もあがってくるとなると、その都度最新のものを行政と相談支援専門員が持っておき、問い合わせのあった方に返していくというやり方がしばらくの間は合っているように思う。

委員 ・スタート時点では一旦相談支援事業所連絡会においてデータを渡しておく。ブラッシュアップしていくので随時新しいものを渡していく。

部会長 ・渡したデータを相談支援専門員に共有してもらい、併せて行政とも共有してもらおう中でワーキングチームでも話し合っていければと思う。就労選択支援を活用される方も徐々に出てきて、その度に課題抽出していく必要性もあるため次年度もワーキングチームは存続させる予定である。一定の報告ができる状況になれば部会で共有していく必要があると思っている。

事務局 ・ハローワークからつながる方もいるかもしれないため、ハローワークとも共有しておきたい。

部会長 ・他にワーキングチームに出席された方の意見等をお願いしたい。

委員 ・就労選択支援が必要となってきた時にどこに相談すれば良いのか。そのような制度のことはハローワークからは言ってもらえない等、色々な問題がでてくることはワーキングチームで共有している。行政としてどういう案内をしていけば良いのか、どういう共有ができるのか等、今後もワーキングチームの中で共有していければと思う。

部会長 ・事業所についても今年度中には一旦メールで、就労選択支援についての説明と乙訓ではこういう風に進めていきたいことを各事業所に伝えていくことが決まっている。併せて来年度就 Bの交流会を部会で検討していくにあたり、現況等説明を併せて話ができる機会を持つ必要があるということもワーキングチームで出ていた。

・次に「5 次年度の課題と方針」だが、庁内実習については周知方法と事前打ち合わせ、広報の仕方等について併せて検討していく必要がある。今年度は12名の希望があった。来年度も続けていく方向で考えている。来年度の庁内実習について意見等はあるだろうか。

委員 ・できるだけ他部署にも声掛けをしていき、複数人が実習してもらえる機会をできるだけ設けていきたいと思っている。今年度誤解が生じたケースもあったことから、こちらから伝えるべきことを確認し、質問がなかった時にはこちらから確認していくような形で進めていければと思っている。

部会長 ・来年度の庁内実習については商工会にも協力いただきながら進めていきたいと思っている。

・就労支援に関わる事業所の基本情報については引き続き半年に一回更新をお願いしたい。

・福祉就労から一般就労に向けての取組については協議をしていく一方、福祉事業所の課題についても乙障協と連携しながら交流の機会、学習の機会、就労選択支援事業所として知っておく必要があることや課題抽出については引き続きワーキングチームや部会で確認をとっていきたいと思っている。「次年度の課題と方針」について意見等あるだろうか。精神障がいのある方の就労の課題等についても何かあるだろうか。

委員 ・精神障がいのある方は就 Bにも行かれていない方がおられる。一般就労の段階までいかない方が多い。就 Bで自分に合った就労ができることがまずは一番だと思っている。

部会長 ・企業から相談される商工会として圏域の就労の課題等について何かあるだろうか。

委員 ・利用者がなかなか獲得できないと言っている事業所もある。意見交換等をしてほしいという

希望もあった。会員の事業所の中では人手不足が落ち着いてきている。賃金があがってきているため採用がしにくいところはある。最近ではコロナ以降、倒産や廃業も増えてきている。そうなる障がい者雇用も難しくなる可能性もあるが、リモートワークを募集しているところもある。家族の思いとしても自立していただくのが一番だとは思う。障がい者だけでなくひきこもりの方もおられるので一緒に見ていく必要があるように思う。働き手が足りていないところに少子化がある。経済を支えていくところが一番大事になってくるように思っている。

部会長 ・次年度の課題と方針については今いただいた意見等をふまえて修正をかけたうえで、メールにて確認していただきたい。

委員 ・最後から4行目「乙訓の福祉就労の現状を踏まえ、現在の就労支援に必要な取組について検討します。」とあるが、かなり抽象的な表現なのでもう少し明確に伝わるようにしていただきたい。どういうところを想定されて、こういう文章になったのか聞かせていただけるだろうか。

委員 ・「4 今年度の活動（1）庁内実習の実施について」のマーカー部分にある「就労継続支援 B型事業所の現状や課題に向き合う必要性について」に紐づいているように思う。

委員 ・「5 次年度の課題と方針」の中の「現在の就労支援に必要な取組」が今までの話の流れだと一般就労の目標以外の支援という内容の向上みたいなところと受け止めて良いだろうか。

部会長 ・これまでの意見にもあったように事業所間の交流機会がないというところで、各々の事業所の中で課題があり共有がしたい、他事業所ではどのようにしているのかを聞きたい、新たな視点を入れたいということで、後程伝えようと思っていたが乙訓障がい者就労支援ネットワーク「たけのこ」（以下、「たけのこ」という。）では今回、1月26日に就労継続支援 A型（以下、就 A という。）、B型の方を中心にした学習会をさせてもらった。36名（事務局職員等含む）が集まり、アンケートからも課題があり、まずは交流の機会を持つ必要があり、その中から共通した課題で圏域として考えていくべきことは抽出し、課題解決を圏域として行政と一緒に検討していく必要がある。各事業所で解決できないことについては制度や取組等で検討していけるところもあると思うが、まずは交流機会を作るところからだと思う。

委員 ・今、国は障がいがある、なしに関わらずステップアップを求めている。本来、ステップアップだけを目指せる方だけではない。就 A で今ここで働くために日々頑張っている方もいれば、就 B でこのまま頑張っていきたいという方もいる。その方達のことを誰が今考えられるのか。居場所として就労継続支援があるというのは使い方が間違っているのかということや誰が考えないといけないのか。各事業所の声を聞くネットワークがあることが大事だと思う。そこから就労選択支援がどうあるべきかを考えていければ良いと思う。

委員 ・この文章だと内容が伝わりにくいので、もう少し意図するところが伝わるようにしていただきたい。次年度のことなので具体的なことは書かなくても良いと思うが、どこをターゲットにして福祉型就労継続支援を取り組んでいくのかを手法は別として文章化していただきたい。

委員 ・就 B の交流会の話も出てきているので、もっと明言されても良いと思う。やっていく方向になると思うので、「就労継続サービス事業所の交流会等」のような書き方になるのかはわからないが文言を入れてもらった方が良いと思う。

部会長 ・「交流会」と言ってしまうと良いのかも含めて文言を検討していきたいと思う。

委員 ・「交流会」と書いて「交流会」をしないといけないのであれば、「4 今年度の活動（1）

庁内実習の実施について」で「支援者のネットワーク・相談のできる場づくり」や、「4 今年度の活動（3）福祉就労から一般就労に向けて」では「また企業や就労支援を行っている機関とのつながりを作る」とあるので、この辺りの言葉をうまく使えたら良いと思う。

委員 ・「4 今年度の活動（1）庁内実習の実施について」のマーカ一部分の最初の5行は庁内実習の実施についての報告ではないように思う。その中で得た意見であり、そこをそのまま次のところに持っていったらどうか。庁内実習に取り組む流れの中で得た意見ではあるが、庁内実習の目的とは違った成果のところで出てきた意見なので、報告の中に盛り込むよりも次年度の解決すべき課題としてあげてはどうだろうか。

委員 ・ただいまのご発言について、私も同部分は実習とかかわりなく拾い上げられた、地域の現状把握のための判断材料と思う。「庁内実習」の項目に含めるのではなく、「次年度の課題と方針」で今年度の部会の活動を通して得た課題としてまとめればよいのではないか。

部会長 ・一旦修正し、運営委員会に諮っていきたいと思う。

○乙訓障がい者就労支援ネットワーク「たけのこ」から

部会長 ・26日に学習会を開き、36名の参加があった。アンケート集約についてはできていないため、また報告させていただく。現時点での意見としては「他事業所との意見交換や課題の協議、他事業所の取組を聞く機会がなかったのでこの機会を持続してほしい。」「この機会に自事業所でも考えていけたらと思っている。」というような話が出ていた。「報告いただいた内容と実際に聞いたかかったところに相違があった。」という意見もあったと聞いている。「たけのこ」として次の学習会ではどうしていくのか協議していきたいと思っている。

2 その他

部会長 ・資料「指定就労継続支援事業所の新規指定や運営状況の把握に関するガイドライン」について、今話せる現状のところの説明をお願いしたい。

委員 ・補足的に説明させていただく。ガイドラインについては昨年11月28日付けで厚生労働省から各都道府県、指定都市、中核市の障害保健福祉主管部主管部長宛てに出されている文書である。就労継続支援事業所の新規指定や運営状況の把握、運営指導等の中身について厚生労働省でガイドラインを作成したものになる。直接各事業所に何かを求めるということではないが、国からこういうガイドラインが出ているので新規指定や運営指導のところでガイドラインに沿って都道府県、指定都市等で実施をしていくことになる。事業の参考にしていただければと思う。ホームページでこの資料やガイドラインの本体が検索すると出てくると思う。詳しいことが知りたければホームページで見いただければと思う。

部会長 ・就労支援部会では今の福祉の状況ということで新規に入った情報については添付している。

委員 ・今までなかったガイドラインがやっとできたように思う。

委員 ・指定権者等が新規指定するにあたり、ずっと言われている課題として保健所等は人事異動等で担当者が専門知識を持っているわけではないところもあり、こういった辺りに気をつけて指定の申請や運営状況の把握をしていくようにというガイドラインになっているのだと思う。色々な課題があるところに対して解決していこうということで検討が進んでいるのだと思う。

・資料「令和8年度における臨時応急的な見直し（案）」は都道府県宛てに通知が出ているとか厚生労働省から情報提供があるというものではないが、今厚生労働省の検討チームの方で検討している内容がここに書かれている「基本的な考え方」と「見直し内容1、2、3」になる。就B、共同生活援助、児童発達支援、放課後等デイサービスについては令和8年6月1日以降の新規事業所について応急的に報酬単価を引き下げるという議論がされているようである。こちらでも厚生労働省のホームページの中で検討状況が掲載されている。詳しい内容を知りたい方はホームページを見ていただければと思う。

部会長 ・中には運営に心配な面がある事業所もあるところで、ガイドラインが出ることにより見直し等ができる事業所が増えていくことを願っている。適切な運営をしている事業所についてももう一度文書を読み込んでいただく必要があるかと思う。事業所だけに限らず障がい福祉に関わっている全ての者が自覚をもって確認すべきところだと思っている。

・今年度の活動報告についてはいただいた意見をふまえて修正したうえで2月17日の運営委員会に諮り、2月20日までに部会委員にメールで送らせていただく。27日までに意見等をいただけるようお願いしたい。今年度の就労支援部会は今回で最後となる。協力いただきありがとうございました。